



平成28年11月1日 現在	
総世帯数	7,358世帯
総人口	16,825人
男	8,394人
女	8,431人

# 第5回芳川地区総合防災訓練

9月25日(日)快晴のもと、平成28年度第5回芳川地区総合防災訓練が、地区住民約600名が参加して実施されました。午前中は各町会ごとに安否確認・避難訓練等を行

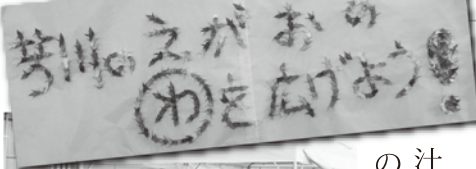
い、午後は芳川公園に集合して、物資搬送・炊き出し配食・救出・救急救命・応急担架搬送・バケツリレー消火・消火栓及び貯水槽からの放水等の訓練を行いました。また、高所作業車・災害時応援特殊車両が展示され、体験乗車も行われました。



今回の訓練の特徴は、支援される側から支援する側に回る、中学生による避難所運営の一環として、配食をはじめ支援物資搬送訓練を焦点に実施しました。参加されたPTAでは女性だけのチームで



救出訓練も行われ、いざという時に女性の力が必要になると感じられました。平成23年6月30日の松本地震から5年が経過し、防災意識の低下も感じる中、もう一度、防災・減災について考える機会となったことでしょうか。



# 「芳川の笑顔の輪をひろげよう」11月5・6日芳川地区文化祭が開催されました。

恒例の展示・体験コーナー、ステージ発表、劇団であい舎の公演、芳川小学校5年生による「ヨシヒカリ」の販売に加え、今年には鉄道同好会によるジオラマが登場し、子どもたちに大人気でした。

芳川小で行うコンサートも、今年から「ドリームコンサート」と改称し、小中学校の児童・生徒の合唱・演奏、コーラスグループの発表を楽しみました。

体育館の入口には、およそ500羽の鶴でかたどった「芳川



の笑顔の輪を広げよう」のテーマが掲げられました。

日赤奉仕団のどん汁、農村女性委員会

の野菜、きびおこわ  
の販売、男厨会による特製カレー、ゆりかご会のバルーンアートや綿あめの無料配布、そして最後は大抽選会と、多くのみなさんが文化と秋を味わいました。



# 第59回松本市 市民体育大会 秋季大会

報告編

開催日の10月9日(日)は、二年連続の雨。軟式野球とゲートボールが中止となり、総合順位がつかず、三連覇は、来年に持ち越しとなりました。

今年も選手宣誓は芳川が務め、ソフトバレーの滝沢さん夫婦がバッチリ決めてくれました。来年は、節目の60回。目指そう三連覇。



## 「楽しくやるぞー!おー!」トーチ発表会



10月7日(金)高学年の掛け声と共に始まった芳川ウイング学童クラブのトーチ発表会。今のように小学校の校庭をお借りして地域の方々にも観て頂く形になって8年程。元々は学童キャンプでの出し物で、参加出来なかった保護者のためにクラブ室前で行っていたものでした。

9月からの本格的練習も雨の日が多く、実際にトーチ棒を持つての練習はいつもの半分。狭い部屋で譲り合って手降りだけの日が続きましたが、当日は天気にも恵まれ、子どもたちも元気いっぱい演技できました。見学に来ていたお友達や保護者からの大きな声援を受け、大成功に終わったトーチ発表会。幻想的で素敵な演技を来年もまた見たいですね。

## 芳川ふれあいウォーキング開催

10月22日(土)芳川ふれあいウォーキングが行われました。

最初に芳川公民館駐車場で、体力・体調・気力にあわせた参加登録を各コース毎に行い、開会式・主催者挨拶の後、体力づくりサポーターに従い、先ず体のストレッチ・ラジオ体操を実施して、ウォーキング準備完了です。

今回の参加者はスタッフを含め104名で、秋晴れのなか南部(村井・小屋)方面に各コースごと順次スタート。



歴史スポット巡り・雑学講座を含み、やや肌寒い中でのウォーキング終了後、各自参加賞を受け取り楽しい一日となりました。



## 「みんなで遊ぼう」VS芳川マツチ

10月16日(日)芳川体育館で、第2回「VS芳川マツチ」が開催されました。開明小・芳川小の児童163名が参加し、中学生スタッフのサポートにより、赤・青・黄・緑の4チームに分かれてゲームを楽しみました。

ドッチビーではボールのかわりにフリスビーを投げあい、子どもたちは元気良く、夢中になって楽しんでいました。最後にビンゴゲームを楽しみ終了。芳川地区の児童のみならずが仲良く、絆が深まった一日になったと思います。



VS芳川



## たちばなし

ペルー沖海域でのエルニーニョ現象の影響を受けて暖冬でしたが、この夏も相次ぐ台風の襲来で、東北、北海道では甚大災害をもたらし、一方では各地で最高気温の記録が更新されるなど酷暑続きでした。その要因とされているのがCO2の増加、地球回転軸のブレによる偏西風の蛇行、太陽黒点が10年11年周期で増減している影響等々言われています▼昭和一桁生まれの御年83歳の同級会を蓼科温泉郷のホテルで行い、翌日は茅野市の尖石縄文考古館を見学しました。三千〜五千年前の縄文時代に、八ヶ岳山麓に集落が発達し、縄文文化が繁栄した時代の遺跡から出土した多数の土器、狩猟具等が展示されています。中でも驚嘆するのは国宝の「土偶」が2体も展示されていることです。その内1体は「縄文のビーナス」と言われ安定感のある腰と尻、太い足で立つ表情豊かな女性の姿です。もう一体は「仮面の女」といわれ、どっしりと大きな足、逆三角形の仮面を被った姿で神秘的雰囲気を出しています。又、史跡公園の中には縄文人が暮らした集落の復元住居があり、冬期を想像すれば厳しい寒さをどう凌いだのだろうか思い馳せるところです。